



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報



第41期第3号

2021年12月10日

発行者:小泉基

明日の教区に希望を持つ

小泉 基

11月3日、文化の日の恵み野教会。数年ぶりの開催となった教区の役員研修会に、道内4教会から15名の役員と牧師が集いました。

開会礼拝では教区長として、これから取り組むべき教区の課題は決して小さいものではないけれども、イエスさまが名前を呼びつつ群れの羊を愛おしまれたように、まずはお互いの名前を呼びあうことが出来るようになることから、教区の課題を負いあう仲間としてのあゆみを始めていきたい、とメッセージを語らせてもらいました。これを受けて中島先生がお互いを知り合うための自己紹介の時間をリードして下さり、その後それぞれの教会のこの間の取り組みについて報告しあいました。

ランチ休憩を挟んで午後の時間は、まず岡田薫財務部長から「北海道特別教区財務から見た歩み」と題する発題を受けました。わたしたちが東教区からわかれ、教区の歩みをはじめて40年。最大8教会8牧師の時期もあったことを思えば、4教会4牧師の現体制は少しさびしい気もしますし、当初描いた12教会というビジョンからは少し違った道を歩んできました。けれどもこの歩みも、その時々信徒と教職が、海外や全国の支援を得ながら精一杯取り組んできた宣教の歴史でもありますし、それを財務の面から通してみていくならば、諸教会がよくよく健闘してきたあゆみであったのだと、わたしたちの歴史を理解することが出来ました。

この発題の後、教区長として「これからの北海道特別教区」と題してお話ししました。道内4教会の経済的実力がそれぞれどの程度であるのか。歴史的な経緯によって全体教会から教区に繰り入れられている補助金の規模と今後の見通し。改めて突きつけられると、決して明るい話ばかりではありません。けれどもこれからも、諸教会の協力を通して、それぞれの教会の宣教力を維持しながら、教区に属する誰もが安心して教会生活を続けることができるのだという希望をもわかちあうことができたと思います。

今回の研修会では、各教会の役員さん方も少し代替わりしつつあると感じられました。たとえそこに課題があっても、教区の教会が協力しあって取り組んでいく体制をつくることが出来るなら、教区の明日に希望をもつことが出来る。帰りの汽車の中で役員さん方のお顔を思い起こしながら、そんな頼もしい思いをいただくことができた意義深い役員研修会となりました。

近況報告



【函館教会】

小泉 基

今年の宗教改革記念主日。函館ルーテル教会では転入の祈りと洗礼式が行われました。近隣の学校で働いておられる教員のご一家が転入なさり、小学校3年生の女児の洗礼式となったのです。毎週子どもの声が聞こえるようになって教会が明るくなったように感じられます。10月3日～11月14日にはミニバザー、11月7日には召天者記念礼拝と墓前の祈り、11月21日には子ども祝福礼拝とクリスマスツリーの飾り付けが行われ、いろいろ制約がある中でも例年のように行事を行えることが嬉しい秋の訪れでした。また、屋根の板金張り替えという大型補修工事が無事におこなわれたことも感謝でした。

【札幌教会】

日笠山 吉之

札幌教会は、アドベントからフルサービスに戻りました。式文を歌えるのは約2年ぶりのこと！嬉しいです。これでこそルーテル教会です。

さて、秋の主な報告を致します。10/10は、オンラインで神学校の宮本新先生に講壇奉仕礼拝をしていただきました。とても恵まれた礼拝と講演でした。11/6,7にはそれぞれの礼拝堂で全聖徒主日を守り、懐かしいご遺族の方々が来られました。11/21の子ども祝福礼拝は2回に分けて行いましたが、子どもだけでも66名、家族や教会員を合わせると優に100名を超える礼拝となりました。クリスマスにもたくさんの方が来てくれますように。



【恵み野教会】

中島 和喜

例年であれば、9月にはバザー、12月にはクリスマスの行事と忙しいこの季節ですが、今年も昨年同様に行事を行うことはできませんでした。けれども、8月から開かれた教会員向けの教会内バザーは継続されていますし、何よりも11月の全聖徒主日から聖餐礼拝も再開され、皆で共に食卓に集う喜びを受け、以前よりも段々と賑やかになってきました。また、今年も例年通りのクリスマスの祝い方は出来なくとも、「だからこそ、特別な何かが出来るとはではないか」と、特別な年だからこそその礼拝のあり方を楽しく模索しています。

【帯広教会】

岡田 薫

緊急事態宣言が解除されてからも、礼拝出席者は少なめ。少々淋しい日々を過ごしています。けれども10月半ばから12月初旬にかけて、今年も十勝豆の作業を行うことができました。担当者の配慮によって、作業は礼拝後や教区オンライン合同聖研後など短期集中で効率よく行いました。道内外からの注文書には祈りや励ましの言葉も添えられており、大いに力づけられています。一堂に会することが難しい状況でも、祈り合い支え合いつつ喜びの内にクリスマスを祝いたいと願います。

教区役員研修会に参加して

函館教会の役員を数年努めてきて、函館教会以外の皆様と交流する事はほぼ無かったのですが、今回この機会が与えられた事に感謝しています。最近はコロナの影響もあり、教会の内側だけに目が向いてしまい、北海道教区の中の1つの函館というところにまではあまり考えが及んでおりませんでした。研修会に参加して、教区・他教会の現状や問題や課題をシェアする。自分の教会だけでなく北海道教区全体として連携して物事を進めなくてはいけない事もさることながらやはり実際に顔を合わせて交流する事の大事さに改めて気づかされました。（函館教会：岡村隆行）

役員研修会というよりは教区の現状を知る会であった様に思います。それぞれの発題は良くまとめてあり、再確認するものでした。私は長時間のせいか何度も体調が悪くなり、空気を吸いに外に出てしまい聞けなかったところもあり体力的に厳しく感じました。早朝から車を走らせ函館、帯広から日帰りで来られた方の苦労を思うと頭が上がりません。本当にお疲れ様でした。信徒を集めた修養会だったらもっと良かったかもしれないと思うぐらい豊かな交わりでした。（恵み野教会：藤崎福子）

コロナ禍で延期されていた北海道教区役員研修会が、11月3日に恵み野教会で開催され、全道から教会の運営、奉仕に携わる役員が、一同に介しての研修会になりました。参加者一人一人が自己紹介を兼ねてのスピーチのあと、『北海道特別教区の財務から見た歩み』『これからの北海道特別教区』の2つのテーマに沿って岡田財務部長、小泉教区長からのメッセージを心に刻むことができました。教会の維持、存続こそが福音を承れること、信仰をより強めることが出来ることを実感することが出来ました。教会を通じて信仰の輪を大切にしながら歩んでいきたいと思えます。（札幌教会：井島正明）

伸び伸びになった研修会。牧師の運転で代議員、会計の3人が帯広教会から参加しました。久しぶりに会った方、ズームで見知った方にお会いできて楽しいひと時を過ごせました。午後の教区のこれからの付いては、色々と考えさせられる時間でした。この先の何年かで、礼拝の曜日及び時間等が変わることについていけるか心配。もしかしたらこの事は試されているのかも知れないけれど、私を救い出してくださった主を信じて歩みます。（帯広教会：岡田ひとみ）



藤崎(恵) 有働(帯) 井島(札) 滝田(札) 小泉 松島(札) 日笠山 中島
佐藤(恵) 太田(恵) 岡田(帯) 岡田 田中(札) 岩崎(函) 岡村(函)(敬称略)

『教会讃美歌増補』について

札幌教会 日笠山吉之

去る10月31日に『教会讃美歌増補』が発行されました。当初の予定では2017年の発行を目指していましたが、4年も遅れてしまいました。委員長を仰せつかった者として、皆さんには平身低頭に謝らなければなりません。その代わりに、それなりに良いものが出来たと思います。献身的に編集作業に携わられた委員の面々のお陰ですが、発行を忍耐強く待ってくださった皆さんの祈りの賜物でもあります。

この歌集の特徴を幾つか挙げると、まずルターが作ったと言われているコーラルをすべて網羅したこと。次に、公募で選ばれたルーテル教会員の方々の作品が多数収録されたこと。そして、既によく歌われている他教派の歌集からも何曲か収録したこと。合わせて全54曲。なお巻末には、ルーテル教会の新しい式文も付録として収録されました。これから礼拝や教区の行事等でも用いていただければ幸いです。

この『増補』購入に当たっては、教区からも補助を出していただけることになりました。各教会にて、来年の1月末までにお申し込みください。



教勢動向(9月1日～11月30日)

函館教会	・受洗	木下結愛(10月31日)
	・転入	木下学 木下多津子(9月4日)
札幌教会	・転入	藤田かをり(10月30日)

